

整形外科治療 update 2021

整形外科医にとって「骨折治療は必須」とよくいわれ、整形外科医なら誰でもできるという認識が未だ巷に存在します。多くの市中病院では外傷症例が手術数の半数を占め、専門医取得のためにも様々な外傷症例を経験しなければいけない背景があるためか、骨折治療は若手の仕事という認識の医師も多いと思います。しかし、本特集「整形外科治療 update 2021」を読んでいただくことで、それは過去の話で、いまは高度な専門知識が必要な整形外科の一分野で、片手間にできるものではないと理解いただけるかと思います。そのため「骨折治療」とせずにあえて「整形外科」とタイトルをつけ、その技術を時には救命のため、救肢のため、機能予後のために遺憾なく発揮する必要があるサブスペシャリティという認識で編集しました。

本特集は三部形式をとり、まずは救命救急領域で活躍する先生に整形外科治療がいかに救命救急に必要な手技であるかを解説いただきました。次に重度四肢外傷に対するアプローチと血管損傷、神経損傷、骨欠損に対する最新の知見を解説いただき、最後に今後 30 年間は整形外科医の使命となる脆弱性骨折に対するアプローチを術前、手術手技そして骨粗鬆症治療に至るまでを解説いただきました。

ご執筆は現場で実際に治療に携わっている新進気鋭の先生方をお願いしました。十分な臨床経験と文献に裏打ちされた素晴らしい内容であります。非専門医はもちろんのこと、専門医にとっても本特集より多くのことを学べると自負しております。内容を十分に吟味し、応用することで今後の臨床のお役に立てれば幸いです。

(宮本俊之)